



大阪府富田林市の山あいにある府立金剛コロニーには、知的障害のある845人が入所している。入所数は全国一。30年以上暮らす人だけで260人いる。

指導員は320人いるが、辞めて地域で働く人もいる。5月にオープンした東大阪市の通所施設「ヤンググリーン」の中野陽介所長(53)は78年から8年間、金剛コロニーの指導員だった。「理想に燃えた指導員も、入所施設で長く働くうち、次第に管理的になる。障害者本人の意思が届かない」と感じた。入所施

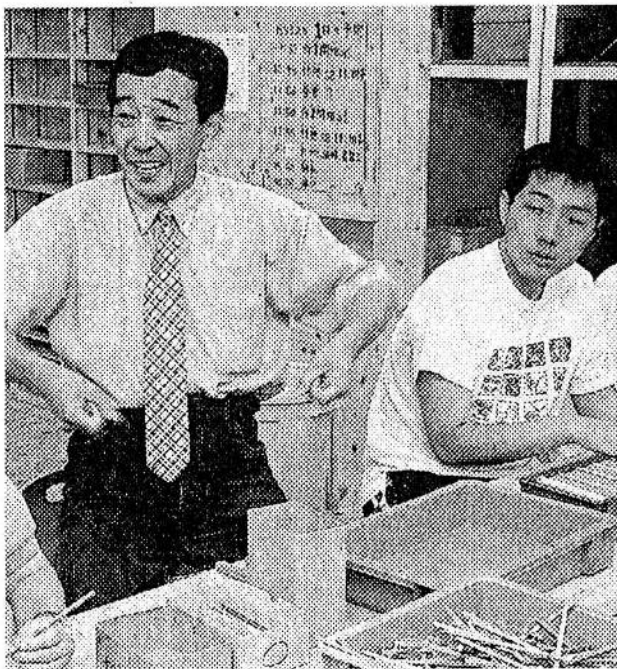
## 管理よりも喜びを

記事を読んだ感想やご意見をお寄せ下さい。名前、年齢、職業、連絡先を書き、〒530-8251(住所不要)、毎日新聞学芸部「みんな一緒」係まで、ファクスは06・6346・8204、メールはosaka.gakugei@mbx.mainichi.co.jp

設をすべて否定はしない。だが、「『本人の発達のため』と指導員が障害者に絶えず訓練を課す。そうではなく、障害のある人が『生まれて良かった』生活を地域でこそ築きたい」と語る。

大阪市で四つの授産施設と作業所をサポートするNPO法人「W・I・N・G」(略をはこぶ)の菅野真弓・代表理事(51)も、11年間勤めたコロニーを85年退職した。忘れられない光景がある。盆や正月は入所者も一時帰宅する。当時20歳前後の重い

利用者に明るく声を掛ける中野所長(左) 大橋公二写す



知的障害の男性は、高齢の父の元に帰っても風呂にも入れてもらえなかった。しかし、ある年の盆、父を待って施設の寮の玄関前を行ったり来たりしていた男性が、父の姿を見た瞬間、うれしそうに笑った。「障害のある人の生活の場はやはり、入所施設でなく、家庭で。」【遠藤哲也】

「よかれと思っていた指導も、障害者本人の意思を尊重する方向に変えない」と金剛コロニー企画調整室長の白土隆司さん(56)も言う。現在、同コロニーは23のグループホームを作り、地域生活支援に力を注ぐ。

